

これまでの猪名川部会での利用に関する主な意見

■ 治水、利用、環境の間の優先順位をどう考えるか

これまでは生命や財産を守るために治水を優先させてきたが、今後は、都市部の唯一の自然としての河川、レクリエーションのための河川といった様々な観点から河川を捉えてゆかなくてはならない。そのためには、議論の中で優先順位をつけてゆかなくてはならない。	第8回猪名川部会（吉田委員）
優先順位は地域、歴史、文化等によって変化する。多数決によって決定するのはできるだけ避けた方がよい。	第8回猪名川部会（尾藤委員）

■ 誰のための川の利用を考えるか

いったい誰のために、河川敷の利用を優先すべきか。今現在誰が利用しているかではなく、これから先、いったいどんな人たちにとって何が一番大切なのかといった視点で考える必要がある。	第8回猪名川部会（細川委員）
水はもはや世襲制の農業者だけのものではない	田中（哲）委員（No.20猪）
河川から利益を得ているのは、漁業組合だけではない	田中（哲）委員（No.20猪）

■ 多くの人たちのニーズをどうバランスをとるか

様々な考えを持ったユーザーが、猪名川の都市部の狭くて短い河川敷に存在しているため、環境、治水、利水の間でコンフリクトが生じている。今後、その調整のためにゾーニングという考え方を議論してみてもどうか	第8回猪名川部会（池淵部会長代理）
河川敷にコスモスを植えることを望む団体もいれば、川らしい自然の姿を望む団体もいる。その地域によって考え方は様々だろう。地域の住民、行政、河川管理者を含めて話し合う場を地域ごとに設定する必要がある。	第8回猪名川部会（松本委員）

■ 河川敷・水域の利用のあり方をどうするのか

できるだけ自然のままに保存する、自然へ還元する

都市部の河川は、大自然の力と人間の力が均衡して保たれている貴重な中自然である。教育の場、憩いの場として残していくべきである	第8回猪名川部会（田中委員）
猪名川下流は平地ばかりの街であり、川が唯一の自然で、その自然を失うと子供たちは自然を知らないまま育っていってしまう。	一般意見発表者

都市の貴重な自然空間として積極的に利用する

○都市空間としての利用

水と親しめる川づくりを（子供が素足で水辺に降りても安心な川等）	第8回猪名川部会（一般意見発表者）
車の乗り入れを禁止し、市民が安心してウォーキング、ジョギングを楽しめるようにする	第8回猪名川部会（一般意見発表者）
（河川敷にチューリップや桜を植えることに対して川らしい自然を壊す行為という意見があるが）市民に喜びを与える点から許される範囲で考えていけば良いのでは	第8回猪名川部会（一般意見発表者）

○学習拠点としての活用

自然が減った流域の都市部の子供たちにとって、河川敷は唯一の環境教育の場	細川委員（No.36猪）
-------------------------------------	--------------

○舟運の復活等を

舟運のための対策を（緊急用も含めて）	第8回猪名川部会（一般意見発表者）
阪神疎水を	一般意見募集

■ その他

猪名川水系を三川の重要な文化河川として位置付けるべき	一般意見募集
----------------------------	--------